

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371400793		
法人名	有限会社 かがやき		
事業所名	グループホーム「かがやき」 I		
EI	愛知県名古屋市長区有松南415-1		
自己評価作成日	平成24年2月6日	評価結果市町村受理日	平成24年4月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昼間の活動の充実、夜の快眠を保障します。メリハリのある生活で「かがやき」のある生活を作りだす。を合言葉にして、専門家の先生のご協力を得て、合唱・書道・手芸などを行っています。ホームの主人公は、入居者の皆さん、職員は黒子に徹した日常生活を送っていただける様に努力しています。ホームの主人公は、入居者の皆さんを実践すべく、食事の準備から掃除・洗濯など入居様のお一人お一人の状況に合わせた取り組みを心がけています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2371400793&SCD=320&PCD=23
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市熱田区三本松町13番19号
訪問調査日	平成24年2月29日

代表者の「小規模で家庭的な生活環境のなかで、かがやきのある生き方をお手伝いしたい」との思いを実践する為に、利用者数を1ユニット6人としている。家庭生活に近い6名定員にすることにより、一人ひとりの細かいところまで目を届かせ、漫然と支援するのではなく、外出や小さなイベントを多く企画して、生活にメリハリをつけている。そして、地域の方々にホームを理解してもらえよう。毎月のホーム便りを近所に手配りして、ホーム内での出来事や予定等をお知らせしたり、毎日の利用者との散歩時には近所の方への挨拶を心がけ、地域密着に努めている。また、ホームは静かな住宅地の中にあり、建物も外観からは普通の木造2階建ての一軒家に見え、地域に溶け込んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関や職員室に掲示しています。職員会議などで確認をしながら、実践を行っています。	年度末には1年を振り返り、職員は理念や運営方針に基づいて、「かがやいて生きる」為に、今後やりたい事や目標をレポートに書いて管理者に提出し、皆で理念を共有して実践につなげるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日のお散歩などを通し、交流を図っています。また、地域の子どもたちを招いて、入居者の皆さんやご家族の皆さんと交流しています。また、毎月、かがやきニュースを近所の方に配布しています。	日常的に、近所のボランティアがホームに来て手伝ってくれており、様々なイベントや教室もボランティアの方々が協力している。利用者はフラダンスを地域の方々に披露するなど、お互いに積極的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「かがやきニュース」を毎月、地域に配布し、「かがやき」の事を知って頂く機会となるようにしています。年1回、緑区認知症講座にGHの取り組み発表としてフラダンスを披露しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実践報告を行ったり、避難訓練などにも参加していただいています。会議では、ご意見を頂き、サービス向上に努めています。	各方面の方々が集まり易いように、開催日時を平日、土曜、夜間等と変えて年6回開催されている。スライドで日常生活を報告して意見をいただいたり、避難経路や方法のアドバイスを得たり、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が認知症指導者として活動しています。その際に、市町村と連絡をとっている。いきいきセンターに毎月、「かがやきニュース」を配付し、情報交換を図っています。	管理者は、市の研修会の講師を務めたり、困り事や不明な事は絶えず連絡、相談している。地域包括支援センターの職員には避難訓練にも参加してもらい、ホームの実情を伝えながら連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関(9時～18時)には施錠をしていますが。夜間は防犯上の都合により施錠をしています。身体拘束を行なわない介護を実践する為に、職員会議などの討議を大切にしています。	ホームでは、鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。利用者が外出して行方が分からなくなった場合に備え、地域の青パトに協力をお願いしており、緊急時用の利用者の顔写真や特徴を記載してあるカードも用意して、安全面にも配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の方の尊厳を守る大切さを職員で意思統一しています。身体に傷などがある時は、記録に残している。記録に基づき、話合いを行なっています。虐待について学ぶ機会が無い為、研修への参加を増やしていきたいと考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方がみえ、随時、関係者の方と相談し、行なっています。職員が、権利擁護を学ぶ機会が少ないため、研修を増やしていきたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には、重要事項説明書や契約書について説明をおこなっています。また、質問や疑問点などをいつでも、聞いていただけるに努力しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会への参加や、家族会にてご意見を頂き、運営に反映しています。また、ホーム訪問時にもお話が出来る様に努めています。ご意見に関しては、職員会議にて討議を行い、反映出来る様にしています。	家族には訪問時、運営推進会議、家族会等で常に問いかけたり、意見箱を玄関に設置するなどして、意見や要望が出しやすいように努めている。また、利用者の要望も日頃から捉え、利用者主体の運営に結びつけるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議などで、職員の提案を聞き、運営に反映出来る様に努めています。また、個別での懇談で意見を聞く機会を作っています。	管理者は、日頃から職員が話しやすい雰囲気作りを心がけている。また、月2回の会議に加え、個人面談もっており、絶えず職員の意見や提案を反映するように努めている。	当ホームも開設以来、年月が経過している。職員同士の交流が図られ、お互いの意見を出し合い、その結果、より良い運営が続いていくことを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境になるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加出来る様に努めているが、機会が少ない為、今後も増やしていけるように努めていく。内部研修としてレポート発表会を行なっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1回、他のGHさんとの勉強会を開催しています。勉強会には、職員も参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人さんのお話をしっかり聞く事を大切し、安心して頂ける関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の方の話をよく聞く事で、不安などの軽減を図っています。また、ホームから相談をし、ご家族のご意見も大切にしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する際は、ご家族とのお話を大切にしています。また、体験入所を行い事で、ご本人さんにとってよい方法になるように話し合いを行なっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者の皆さんを人生の先輩として接しています。様々な場面で、皆さんが主体となり教えて頂けるような関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方と連絡をこまめに行なっています。ホームから相談をする事で、ご家族の方と一緒に支援出来る様にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの方とのお手紙や電話での交流は行なっています。なじみの場所との関係が途切れないように今後、努めていきたいと思っています。	ホームには、家族や馴染みの方の訪問が多く、家族との外食やお墓参りも行われている。さらに、以前通っていたスーパーに買い物に行ったり、ホームに入居する前に住んでいた場所へ出かけたりする支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活(食事づくり・洗濯など)や日々の行事などでも、一緒に行なう事で、入居者同士の関係を築ける様に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、連絡をし、行事等に参加して頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からの会話を大切にし、その方の希望や意向に沿えるように努めています。困難な方でも、ご本人が出されているサインを大切にしています。また、ご家族と相談しながら、その方の希望に添えるように努力しています。	「ホームの主人公は利用者の皆さんで、職員は黒子に徹した日常生活を送る」が職員の共有した考えで、一人ひとりの思いや希望を、日々の表情や行動から把握するように努めると共に、どのように暮らすことが良なのかを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人さんや、ご家族よりお話を聞いています。また、ケアマネージャーさんからも、お話を聞く事で、その方の事を理解出来る様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの体調や気持ちの変化を把握出来る様にしています。また、職員で情報を共有出来る様に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の思いを大切に、職員会議で討議を行い、素案を作成しています。その後、家族懇談を行い、ご意見を頂き、介護計画を作成しています。モニタリングは、職員会議を行い、モニタリングを行なっています。	アセスメントと介護計画が一体化した様式で、モニタリングも連動して毎日行うことにより、本人や家族の要望や変化に応じて臨機応変に計画を見直すことが出来るように努めている。担当者が決めてあるが、全員で意見交換している。	職員間で様々な意見交換を行いながら介護計画を作成していることが確認できた。介護計画を日常の支援に結びつけることは容易ではないと思われるが、現状の取り組みが続くことを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や、職員会議で実践についての確認し、介護計画にいかせる様にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	手芸や書道などや、買い物などの外出を含め、ご本人さんの状況に合わせたケアが出来るように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	緑区社会福祉協議会に加盟し、行事などにも参加しています。また、近所の美容院や電気屋さんを利用しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	診療所との連絡を大切にしています。その際、ご本人やご家族を伝えたり、必要に応じて、かかりつけ医とお話が出来る様にご本人さんにとって必要な医療が受けられるように支援しています。	月に2回協力医の往診があり、週に1回看護師が訪れるが、24時間電話対応は可能で、必要に応じて訪問診療も行われている。その他は家族同行の受診となっているが、緊急時、必要に応じて職員が通院介助している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の出来事や些細な事でも相談が出来ます。また、必要に応じて受診などの医療的処置をうけています。24時間、看護師さんと連絡が取りあえるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、お見舞いに行った時には、医療機関と相談と情報交換を行い、早期に退院が出来る様にカンファレンスをおこなったりしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族・医療機関と話し合いを重ねています。職員間でも情報共有出来る様に努めています。また、日頃からご本人さんの意向を聞くように努めています。	本人や家族の意向、本人にとって最良の選択等、ホームの支援方法を踏まえ、医師、看護師、職員が連携をとり、随時意向を確認しながら取り組んでいる。ホームとして、医師の指示の下で看取りを行った経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルや救急時連絡網を作成しています。職員は、年に1度、救急法の講習会に参加しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を実施しています。また地域の方や消防団の方にも参加していただき、避難訓練を行なっています。	運営推進会議にて、今年度は防災を軸にして話し合いを進め、災害時における地域との関係作りや、家族との連携等について検討された。避難訓練には、家族の方々、地域の方々、地域包括支援センターや消防署の職員等の協力も得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として丁寧な言葉づかいを大切にしています。職員間の申し送りもご本人さんに聞こえないように、職員室で行なうようにしています。	アットホームな雰囲気の中でも、常に年長者としての敬意を忘れず、呼び名も本人の希望を確認して行っている。援助が必要な時も、職員は黒子に徹する気持ちを忘れず、本人の気持ちを大切に自己決定しやすいように心がけている。	明るい雰囲気の中、耳の遠い方が多い為、トイレの声かけが自然に大きな声で行われがちになるが、出来る限り他の人には分からないように、小声でさりげなく行われる事を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	献立会議など、入居者の皆さんに決めて頂ける環境になりように努めています。また、自己決定がしやすいような声かけを行なっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合にならない様に、入居者の気持ちや体調に合わせて過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を一緒に選んだり、その方にあつたおしゃれが出来る様に努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは一緒に楽しみながら、行なっています。片付けも入居者さんが行なって下さっています。	散歩時に無人の野菜市に行き、食材を購入したり、庭先で育てた野菜を食材にしたりして、楽しみながらの食事作りを行っている。、献立は皆で一緒に考え、栄養士にチェックしてもらっている。配膳や片付けも出来る人が積極的に行っている。	食事介助が必要な方もいることで、ユニットによって雰囲気が異なっているようである。食事時の雰囲気がいつも明るくなるように、楽しい会話に加え、音楽等の活用にも期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は、その方に合わせた量と切り方になっています。毎食記録に残しているが、水分量は医療的に必要な方のみになっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前の口腔ケアを行なっています。毎食後の口腔ケアは、一部の人になっているため、今後の課題だと考えています。必要な時は、歯科往診も受ける事が出来ます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗があるときは、失敗の原因を探り、その方にあった誘導や声かけを行っています。また、その方にあったパットを使用する事で、ご本人さんの負担軽減を図っています。	気持ち良さや排尿感覚を大切にするために、布パンツの使用を基本にして、トイレでの排泄を大切にしているが、本人に合わせて紙パンツ、パッド類も使用している。夜間はポータブルトイレを利用する事で本人の負担軽減を図ることもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩やフラダンスなどの運動を行なっています。しかし、便秘の方は多いため、飲み物などの工夫が必要だと思っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は、決められているが、その中で、入居者の皆さんに合わせた入浴が出来るように努めている。	入浴は個浴で毎日行われており、菖蒲湯やゆず湯も取り入れて、利用者が入浴を楽しめるように努めている。重度化により浴槽に入れない場合は、シャワー浴に加え、足を浴槽に入れての足浴も同時に行って温まってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合わせた、休息や休息の声かけを行なっています。寝たまま、起きたままにならない様に気をつけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員に処方箋を回覧し確認をしています。また、薬を服用する時は、3回確認をしています。服用後の確認を行なっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たみや食事づくりなど役割を大切にしています。また、行事などで、その方の好きな事を大切にしています。また、趣味や嗜好が出来る様に支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	喫茶店や外食やスーパーに出かけています。お墓参りや外食は、ご家族と出かけています。	毎日、近隣の散歩に出かけ、近隣の方に挨拶したり、買い物をしたりして楽しんでいる。行きつけの美容院に本人の希望で出掛けたり、初詣や梅見などにも皆で出かけて楽しんでいる。また、家族との外出の機会もつくり、一緒に出掛けることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理をしている方やお財布を預かっている方など、その方に合わせた支援をしています。外出時に買い物をされています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族や友人の方と電話やお手紙で交流を支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お花や入居者の皆さんが手作りした物を飾っています。トイレには、分かりやすく張り紙をしています。また、空調の管理を行い、過ごしやすい環境になるように努めています。	居間や食堂、廊下も木のぬくもりが感じられ、有松絞りの壁掛け、利用者の手作りの貼り絵なども柔らかい雰囲気を作っている。利用者と職員の名前が分かるように、個々の写真が貼られており、利用者も来訪した誰もが親近感を持てるように工夫してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの位置を状況に応じて変更しています。また、使い慣れたご自分の椅子を居間にて使用されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベットや椅子などを持ち込んでいただいています。ご本人が居心地のよい空間になるようにご本人やご家族と相談しています。	ホームでは、テレビとタバコの持ち込みは遠慮してもらっているが、それ以外は本人の希望を大切に、仏壇や使い慣れた家具、ベッド、趣味のものなど様々なものが置かれて、その人らしい部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすく、また動きやすくなるように工夫し、その方の力が発揮できるように支援をしています。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム「かがやき」

目標達成計画

作成日: 平成 24年 3月 26日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなるような、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		おトイレへの声かけでは、その方が聞こえるようにと、大きな声になっていることもあります。職員によって声の大きさや声かけの言葉の違いもあるため、職員全体で統一を図るとともに、入居者の方お一人お一人のプライバシーについても改めて話し合う必要があります。	入居者の方、お一人お一人へのプライバシーを守り、お気持ちに添った声かけをします。	職員会議で、議題にあげて、職員間で話し合います。日常的な申し送りの中でも、職員同士で意見交流を行ないます。	3ヶ月
2		食事の時間では、お手伝いが必要な方もいらっしゃいますが、その時々により、食事の時間の雰囲気も異なります。皆さんがいつも楽しいと感じられる食事の時間になるようにしたいと考えています。	入居者の方、お一人お一人の食事のペースを大切に、楽しい食事の時間と感じて頂けるようにします。	入居者の皆さんが楽しい食事の時間にして頂けるよう、音楽を取り入れるなどし、入居者の皆さんからのご意見や、職員間でも検討をします。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月